

トルのペットボトルにも入れ、家に持ち帰って発酵の観察をしてもらいます。発酵したら洗濯や掃除、畑、お花などに使ってもらうようお母さんや家族の皆さんにも感心を持っていただきたいということから始めました。プール開きの前の掃除には、私達も参加して投入したEM発酵液の効果を確かめています。プールの壁や底には苔もほとんどなく、悪臭もありません。掃除はブラシで簡単にごさすだけで漂白剤や洗剤等を使う必要もなくきれいになり、蒲生に転勤されてきた先生方も大変驚いています。プールには発酵液が投入してありますので、プールの栓を抜くと川を浄化しながら海へ流れていくことになります。このEMを最初に小学校のプールに投入したのが平成16年で、そのことが蒲生町の広報誌に掲載されています。



ここで、出前教室に関する子ども達からの感想をご紹介します。

- ・ EM きんは何だろうかとぼくは思っていました。けれど勉強をして、EM きんは水をきれいにしてくれることがわかりました。ぼくは「プールの水をきれいにしなさい」と思いながら、プールの中に入れてみました。
- ・ EM きんのおかげで、プールそうじが気持ちよくできました。去年はプールの底と壁がぬるぬるして気持ちわるかったけど、今年はそれもなく良かったです。
- ・ 女性の会の人は、EM 石けんも作っていて、使うと川に流れて水にEM きんが入っているので、川をきれいにします。町のたくさんの人たちに知ってもらいたいです。

次に、③のリサイクル活動についてです。

今年は11月27日になりますが、日本一大楠どんと秋まつりが行われます。八幡神社では「鎮守の森の芸術祭」ということで韓国の高校生による舞踊や蒲生の太鼓坊主の演奏が行われ、小学校校庭では「みのりの広場」と称して食のコーナーや出店で賑わいます。



平成12年から参加し、会場内のゴミ分別収集の活動を行っています。燃えるゴミと食品用プラスチック容器・トレーに分けて、トレーは来場者に持ってきてもらい、一緒にEM活性剤で洗浄しています。最近

ではすっかり定着し、来場されたほとんどのの方が自主的に洗ってくださいます。また、生ゴミは水を切り、ボカシを混ぜて堆肥化するために持ち帰ります。祭り終了後、ゴミはほとんど見られず、会場は簡単な掃除で終わります。会場には「再利用 未来のための ちょ金だよ」、「もったいないよ 最後の一口 のこさない」という小学生の標語を掲げています。

また、不用品の販売コーナーも設けています。家庭で不用なタオル、石けん等の日用品や食器、衣類などを提供してもらい販売しています。売上げは私たちの活動資金になりますが、一部は歳末助け合い募金として社会福祉協議会にお届けしています。

そのほか、マイバッグ持参を勧め、「レジ袋減らし隊運動」を続けています。毎年10月15日には、県下一斉のマイバッグ持参調査と啓発活動を行っています。持参率は少しずつ上がってきています。

毎年7月初めには、始良市で錦江湾クリーンアップ作戦が行われます。私たちは重富海水浴場でのゴミ拾いに参加し、スポーツ少年団や各種団体と一緒に活動して短時間で大変きれいになります。落ちていたゴミも少ないです。目の前に桜島があり、湾奥には霧島連山が望まれ、大変景色がすばらしい海岸で活動しています。

平成12年に「環境音頭」が作られました。作詞は当時の役員でありました木上律子氏です。曲はおはら節調ですので、ご唱和いただきたいと思います。

環境音頭

- 1 捨てるゴミでも 生かせば資源
ゴミも分ければ オハラハー生き返る
ヨイヨイヨイヤサッと
- 2 店に行くときゃ 袋を持って
マイバック運動でオハラハーゴミ減らす
ヨイヨイヨイヤサッと
- 3 野菜一つも無駄なく工夫
ボカシ使ってオハラハー地に戻す
ヨイヨイヨイヤサッと
- 4 米のとき汁発酵液で
清き流に オハラハー鮎おどる
ヨイヨイヨイヤサッと
- 5 一人一人が守らにゃならぬ
青い地球の オハラハー未来へと
ヨイヨイヨイヤサッと

次に、(2)の見守り活動についてでございます。

まず、①の蒲生ん子見守り隊についてです。

各学期の始めに蒲生小学校の正門前の通り（八幡通り）と東門通り（辻通り）の通学路に立って、交通安全の見守り、挨拶、声かけ運動をしています。子どもたちの元気なあいさつや笑顔には私たちも元気づけられています。また、普段の登下校の際には、各地域での見守りや



声かけを心がけています。蒲生小学校のPTAと地域の代表が集まってスクールガードという会をつくって子どもたちの交通安全と見守り活動を行っています。信号機のない交差点がたくさんありますので、交通の見守りには神経を使っています。ご覧のとおりピンクのブルゾンを着ていますが、これは私たちが活動する際の制服のようなものです。ピンク色は白、赤が混ざった形ですが、白は清らか、正しいという意味を持っているそうです。赤は誠、真心を意味しているそうです。この二つを併せ持ったピンク色は若々しく、優しい感じがします。それを羽織って活動をしています。

次に、②の高齢者の見守り隊についてです。

高齢のお一人暮らしの方や御夫婦等を訪問して見守りをしています。範囲は会員の近所で朝夕の挨拶やお話相手、ゴミ出し等



のお手伝いなど、気配りをする中で和やかに見守りを続けています。私たちも高齢者ですので、お互いに見守り見守られています。見守られる人たちというのは入院、入所などで変動もありますので、連絡員会で必ずチェックし、気付いたことなどについて情報交換し

ています。

・ 高齢者見守りのマップづくり

蒲生の中心地だけのマップですが、高齢者のお一人暮らしや二人暮らしの方が町のどのあたりに、どのような分布になっているかを年齢別にシールで色分けして視角化し、参考にしようとするものです。災害時の避難場所や危険箇所もマークしています。これは、更に工夫して有効活用ができるようしていかなければならないと考えています。

・ メッセージカード

正月の新年のごあいさつに始まり、季節ごとにメッセージカードをお届けしています。

このカードを作成する私たちも次はどのようなデザインにしようかと楽しみもあり、受け取ってくださる方にも大変喜んでいただいています。実際の大きさはご覧のとおりで、これは9月にお届けしたカードです。

次に、(3)の伝統行事の継承についてでございます。

まず、①の七草祝いについてです。

1月7日に公民館でかぞえ年七歳の子どもたちのお祝いをしています。鹿児島に伝わる「七所の祝い」を婦人会時代から続けております。この写真は全員で記念撮影をしているときのものでおとなしいですが、その下の写真は元気な子どもたちが様々な格好でやんちゃぶりを発揮



しています。そして5人ずつ前にも出てもらい、大楠ちびっ子園の先生による将来の夢などのインタビューのほか、市長さんの挨拶もあります。私たちスタッフは朝七草粥を作り、紅白餅と七草の由来を書いたプリントをお土産としてお渡ししています。子どもたちが元気に賢く育ってくれるようお願いしながら、楽しく活動しています。合併前は社会福祉協議会と一緒にやっていましたが、合併後は女性の会だけとなり、社会福祉協議会には前日に会場の設営をしていただいています。



次に、②の一人金婚式（おっかはんの会）についてです。

金婚式が行われる一方、一人金婚式が昭和60年から始まっています。結婚50年を迎えられた方で配偶者を亡くされた方をお招きして、長年のご苦勞に思いを馳せ、ねぎらいの気持ちを込めておもてなしをし、

1日楽しんでいただいています。お土産も手作りで、メッセージカードには「春浅きこの佳き日に 皆様にお会いでき御一緒に 楽しいひとゝきを過ごすことが出来ましたことを

とてもうれしく思います 千五百歳を越える大楠に 見守られている蒲生 これからもどうぞお元気で」と書いて、記念写真にカードを添えて差し上げています。私たち会員で余興をやり、色々おもしろい踊りもあって楽しんでいただいています。

次に、(4)の行政との対話について
 でございます。

まず、①の市政を聴く会（市長さんとの対話）についてです。

旧蒲生町時代から続いています。現在では市長さんが移動市長室として蒲生支所に来られる日に合わせて、市政を聴く会を持っています。



私たちの質問事項や要望を事前に提出し、回答を頂く形ですが、特に「生ゴミの処理、堆肥化」については、私達の長年の課題ですので、毎回話題になります。対話は終始和やかな雰囲気の中で進められています。

次に②の蒲生地区市議会議員と語る会についてです。

地元の市議会議員3人から蒲生町の町づくりのこれからについてお話を伺います。身近な話題について質問や要望を出しています。

次に、(5)の会員の資質向上を目指してについてでございます。



まず、①の会員研修についてです。

年4回講師の先生に来ていただき、料理や手芸、音楽、文学、歴史の講座を開いています。

それぞれ新鮮な感動や作品作りの達成感などに喜びもひとしおです。料理講座では伝統料理や「かるかん」作りなどを、音楽講座では踊れるような音楽や童謡、唱歌などを習いました。歴史講座では蒲生の歴史ということで大変興味深く、2年連続して講座を設けました。

手芸講座では屑籠やバッグを編んだり、コサージュを作ったりしました。本日はそれをつけてまいりました。

次に、②の研修視察についてです。

年2回研修と親睦をかねて実施していますが、環境問題には関心が高く、始良クリーンセンターや谷口油販、日置市生ゴミの堆肥処理場等を見学しました。史



跡巡りとして都城の島津邸にも行きました。無農薬のお茶を栽培している農園も見学しました。道の駅では買物や食事を楽しみ、和気あいあいとした1日バス旅行となりました。11月には、みやまコンサールのミニコンサート鑑賞と紅葉狩りの旅を計画しています。

4 活動を通して見えてくる課題と今後の活動

最後になりますが、会の課題と今後の活動についてでございます。

まず、今回の発表に際して会員へのアンケートを行ったところ

- ・ 活動は、自分自身の生きがい
- ・ 多くの仲間と交流する喜びがある
- ・ 心身の健康のために大切な場である
- ・ 学びの場でもある
- ・ 社会や地域への恩返しが少しできるのでは
- ・ よりよい環境を次の世代へという使命感がある
- ・ 長い歴史を受け継いで来ていることへの責任感がある

などの評価が寄せられ、現在活動している会員は、「女性の会」を大切な存在として受けとめていることがわかります。しかし、大きな課題は、次の世代にいかにつなげていくかという問題です。

次に、今後の活動についてです。

一つには、次に続く世代の会員を増やす工夫が必要なことです。

二つには、広報活動をさらに広げるため、衛生協会や各種ボランティア団体、家庭教育学級、「のびっちょ会」等他団体との連携をはじめ、活動への参加を呼びかけ共に活動しながら交流を深めるといったようなことを考えています。

三つには、時代に即応した目標に向けて、無理なく、和やかに活動するということです。今まで続けてきた活動に加え、地球環境に目を向けて温暖化を少しでも抑制する活動や自然災害に対応する方法の学習、最近大変な問題となっている子ども達の貧困化問題などに取り組んでいきたいと考えています。

四つには、志を持ち続けることが、心身の若々しさを保つことにつながるものと考えています。「志を持ち続ける」ためのヒントを司馬遼太郎さんの「21世紀に生きる君たちへ」というメッセージの中に見つけました。少年少女に向けて書かれているものですが、私達も21世紀に生きている者として受け止めたいと思います。

「鎌倉時代の武士たちは、『たのもしさ』ということをお大切にしてきた。人間はいつの時代でもたのもしい人格を持たねばならない。人間というのは、男女ともたのもしくない人

格に魅力を感じないのである」と書いてあります。たのもしい人格を持つには、「自分にきびしく、相手にはやさしくという自己を確立せよ。そのための訓練をせよ」と説いています。

「自分にきびしく」とは、己を律しながら、より良い自分を目指す高い志を持ち続けることであろうと解釈しています。「相手にはやさしく」とは、労りの気持ちを持ち、他人の痛みを感じ、相手に思いやりを持って支え合い・和の心で接するということだと思えます。私たち自身の自己を確立する努力をすることによって、若い世代への説得力ある存在となり、共感を得ることになるのではないのでしょうか。

本日のテーマであります「美しい環境と温かい和の心を次世代に手渡したい」という志に向けて、共に歩いてまいりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。